



ウリ科遺伝資源について キュウリ黄化えそ病抵抗性を調査しました

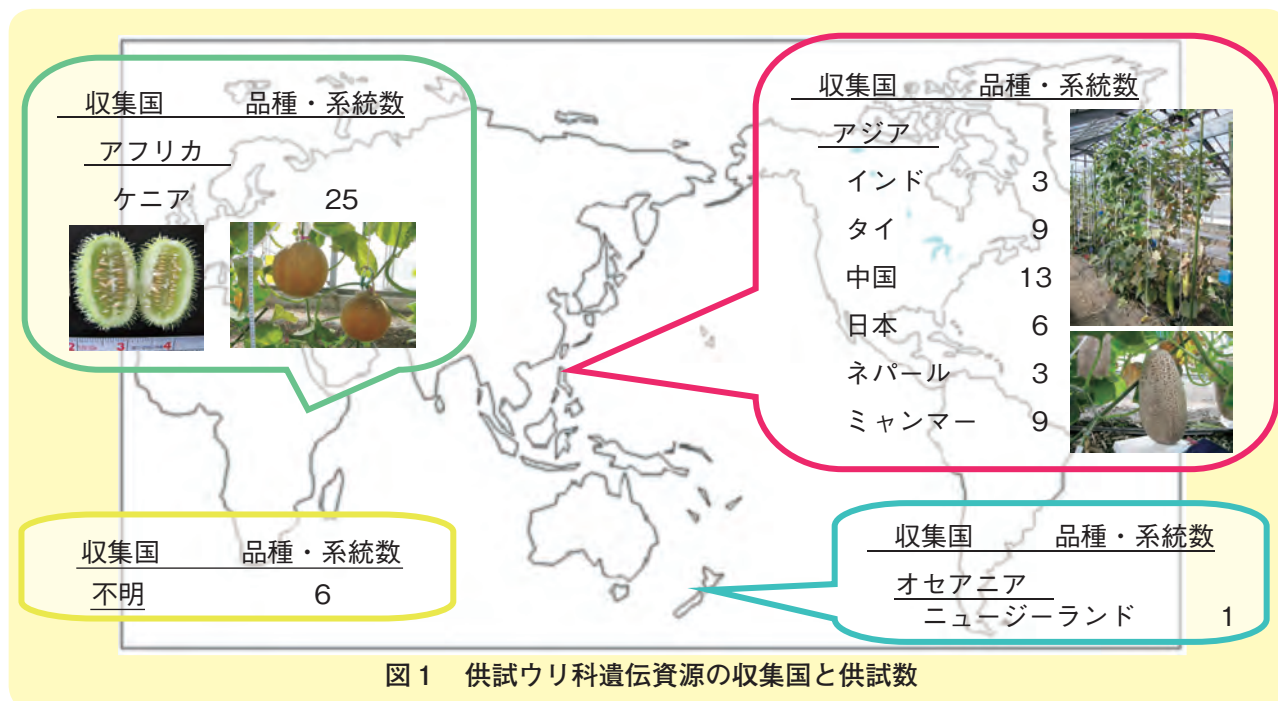


図1 供試ウリ科遺伝資源の収集国と供試数

表1 MYSV 抵抗性検定 (2009)

供試 品種・系統数	ミナミキイロアザミウマの 保毒虫による接種 ^{z)}		MYSV 汁液接種 ^{x)}	
	病徴発生 ^{y)} 品種・系統数	無病徴 品種・系統数	供試 品種・系統数	病徴発生 ^{y)} 品種・系統数
75	71	4	4	4

z) 播種日：2009年4月21日。放飼日：5月26日。調査日：6月11日、6月29日、6月30日、7月7日、7月17日、7月29日、7月30日。
供試株数：1～10株。

y) 上位葉の葉脈透過、モザイク症状、えそ斑点のいずれかがみられたものを病徴発生とした。

x) 農研機構野菜茶業研究所 杉山充啓ら（未発表）。播種日：2009年12月4日。接種日：12月10日。調査日：12月23日。
供試品種・系統：ミナミキイロアザミウマの保毒虫接種で、無病徴を示した4系統を供試した。供試株数：2～4株。

キュウリ黄化えそ病は、ウリ科のウイルス病のひとつで、病原のメロン黄化えそウイルス（MYSV）に感染すると、発病株は、生育不良となり、ひどい場合は枯死します。そのため、本県のキュウリ産地では大きな問題となっていますが、現時点で感染を防ぐ方法は、媒介昆虫であるミナミキイロアザミウマの防除しかありません。

そこで、産地からの要請に対して、当センターがこれまでに集めたウリ科遺伝資源 75 系統の MYSV 抵抗性を調査しました(図1)。

ミナミキイロアザミウマの保毒虫接種による病徴の有無により抵抗性を検定した結

果、75系統中4系統では、供試した全ての株で病徴が確認されませんでした(表1)。

しかし、病徴が確認されなかった4系統について、汁液接種により抵抗性の再検定を行った結果、4系統全てが病徴を示しました(農研機構野菜茶業研究所 杉山らによる検定)。

以上により、当センターが保有するウリ科遺伝資源75系統には、MYSV 抵抗性がないことが確認されました。今後もひきつづき、MYSV 抵抗性素材を探索していく予定です。

(園芸育種担当 鍋島怜和 088-863-4916)